

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「家がある方を見つけたんです」ぼつんと一言。失禁してしまっ「消えてしまいたかった」と思い出す。「今日のようにあなたのような人と話したいんです」と訴える。いつもは「私はここで生活には、とても満足しています」「皆さん、とても優しいし、食べるものはおいしい。言うことはありません」と利用者は言うけれど、心の中にどこかに淋しさや不安があるのも当然である。その気持ちや望みをじっくりと時間をかけて聞き出したり、心の中を察知する努力と支援している全職員の姿勢が随所にみられた。「食べることを大切にしている」こともよく分かる。近所の市場で新鮮な食材を買い、「主食・メインディッシュ・小鉢・箸休め・汁物・デザート」と豊富なメニューを作り、利用者は食事を楽しんでいる。この他にも移動や便所に行く時も生活リハビリにしたり、口腔ケアを大切に、天気の良い時は外の空気に触れる等して、精神的・身体的両面で老化を防ぐ工夫が生活の中に見られるのもすばらしいと思う。利用者の苦悩や言葉の端々、そして表情等をしっかり受け止め、どのように一人ひとりのケアをしていけば良いか、職員全員で書き綴ったノートがある、その職員同志の意見や助言のやりとりを見ると、管理者と全職員が「丸」となっており「利用者」が主人公と大切にしているのが分る。又、「苦情はほほえみを育てる母」、利用者や家族の苦情や訴え、立ち話や相談の中から、グループホームの向上のために生かしていかうとする姿勢が日常の行動から汲み取れ、代表者、管理者、職員全員の向上心と情熱に感動した。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

男性の職員や利用者の存在と、ある程度の痴呆ケアの理解がある地域の人・ボランティア・家族の有志などが、今以上に利用者との関わり、おしゃべり、手伝い等と、いつもと違う人達と付き合えるような仕組みをつくるよう提案したい。

ユニット間にある広いウッドデッキにテラス風の椅子を置いて、そこでも利用者が休めるようにしたら如何でしょう。又利用者の過去の生活歴や元気な時の思い出をリビングや廊下にもっと貼って、利用者や訪問者で話題が広がるようなことを考えたら如何でしょう。

家族へのお知らせはニュースレターで十分されているが、家族の声をもっと引き出し、双方向性を持ったコミュニケーションのツールとして活用を工夫してはどうか。

事業所名

グループホームほほえみ

日付 平成16年12月7日

特定非営利活動法人

評価機関名

高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験13年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験及び

自主評価結果を見る

介護支援専門員8年

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「一人ひとりの人生歴や尊厳を大切にしていきたい」「残存能力を生かして、生き生きとした生活をして貰いたい」「一人ひとりの個別ケアをしっかりとあげ、現在の能力をいつまでも維持して貰いたい」とより高い目標をかかげ、より優れたグループホームを目指している。利用者の家族から信頼される管理者と職員全員の呼吸がぴったりで、暖かさを感じる。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	個性の強い人が多い中で、気の弱い人もうまく調和出来るよう食卓の席を決めたり、テーブルの組み合わせに配慮してリビング空間の雰囲気や良くしている。庭での生活も十分配慮され、積極的に戸外へ出るようにしている。利用者は自分の意志で行動することが多いが、見守りもしっかり取り組んでおり、開放的な空間の中で自然体の生活が見られる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者の人生歴や性格を職員一人ひとりが十分把握して、日々のケアに生かしている。利用者が一番輝いていた頃の話や家族から聞いたり、写真を持って来て貰って、ホーム内の生活でその人の特技や能力を生かして役割を持って貰い、楽しい生活を実感して貰う。自分の言葉で伝えられる人には、じっくり時間をかけて希望や気持ちを聞きだし、十分に話が出来ない人もやさしいサイン、表情等を見逃さないで、その人の心を察知する努力をしている。利用者一人ひとりの思いや考えを綴ったノートを活用して、きめ細かく話し合うことで、情報の共有と目的意識の確認を行い、一貫性のケアをしていこうという職員の姿勢はすごい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	利用者を大切にすることは勿論であるが、家族との交流も積極的にしていこうとする姿勢は、サービスの質の向上に挑戦していこうという現れである。利用者一家族-グループホーム-地域が4味一体となって、地域で痴呆性高齢者ケアをしていこうとする理想の姿が近未来に見えそうな気がする。現在は利用者へのケアを中心とした「ノート」の存在と「苦情を大切にす」という姿勢は大変ユニークであり、この応用範囲を家族や地域まで拡大していくと、上記の4味一体を実現出来るヒントになるかも知れない。		